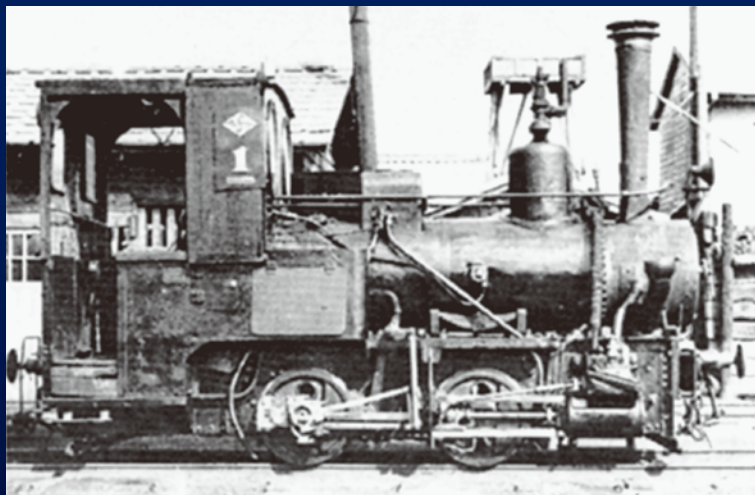


伊予鉄道
125年の

軌跡

～変わりゆくカタチ
変わらない想い～



明治21年から昭和29年まで実に67年間走り続けた甲1型1号機関車
通称「坊っちゃん列車」と呼ばれ、明治21年ドイツ・ミュンヘンのクラウス社から購入した車両。現在、現存する最古の軽便機関車として梅津寺公園内に展示している。



平井鉄橋を通過する横河原線の甲5型14号機関車(昭和28年)
明治41年に1号機関車同様ドイツのクラウス社から購入した車両。現在、1号機関車とともに復元運行している。



伊予鉄歴史写真館

伊予鉄道
125年の

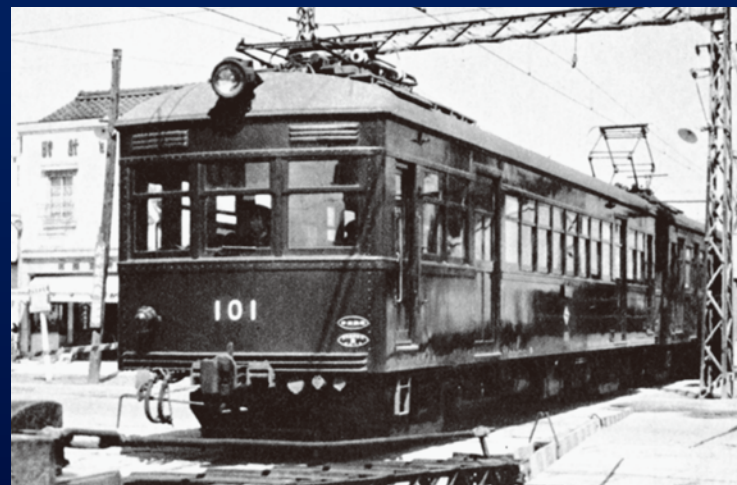
軌跡

～変わりゆくカタチ
変わらない想い～



主に横河原線で活躍したディーゼル機関車DB-2号車(昭和36年)

一部に残されていた非電化区間のディーゼル化のため、昭和28年に導入した車両。昭和42年の横河原線電化に伴い引退した。



大手町駅に進入するモハ100型101号車(昭和29年)

昭和6年の高浜線電化に伴い自社発注した初代の郊外電車。モハ100型車両は800系車両の導入(昭和59年～)に伴い、昭和62年に引退した。



伊予鉄歴史写真館

伊予鉄道
125年の

軌跡

～変わりゆくカタチ
変わらない想い～



高浜線で発車を待つモハニ200型206号車(昭和33年)

貨物室付の構造が特徴で、前方扉の下端が不揃いであるのが分かる。モハ200型車両は800系車両の導入(昭和59年～)に伴い、昭和62年に引退した。



高浜付近を走行するクハ400型406号車(昭和29年)

昭和25年の郡中線電化に伴い導入した車両。クハ400型車両は800系車両の導入(昭和59年～)に伴い、昭和62年に引退した。



伊予鉄歴史写真館

伊予鉄道
125年の

軌跡

～変わりゆくカタチ
変わらない想い～



車体延長工事した際のモハ300型302号車

郡中線電化に伴い導入した車両を昭和36年に自社改造。直営工事としては全国初の試みであった。モハ300型車両は700系車両の導入(昭和62年～)に伴い一部が引退、残る車両も平成20年に廃車された。



古町車庫に停車中のモハ600型601号車(昭和36年)

昭和33年に導入した2両連結貫通式の車両。モハ600型車両は610系車両の導入に伴い、平成7年に引退した。



伊予鉄歴史写真館

伊予鉄道
125年の

軌跡

～変わりゆくカタチ
変わらない想い～



昭和60年に郊外電車初の冷房化された800系813号車

800系車両は京王帝都電鉄(現:京王電鉄)から譲り受け、昭和59年から導入。3000系車両の順次導入に伴い平成22年に引退。一部車両は銚子電鉄に譲渡し、引退後も活躍している。



現在の車体カラーになる前の700系767号車

700系車両は創立100周年を迎えた昭和62年から導入。京王帝都電鉄(現:京王電鉄)からの譲渡車両。譲り受け前の昭和39年、鉄道友の会から通勤電車日本一として「ローレル賞」を受賞している。



伊予鉄歴史写真館

伊予鉄道
125年の

軌跡

～変わりゆくカタチ
変わらない想い～



松山市駅に停車中の610系611号車

610系車両は37年ぶりに自社発注で新造したステンレス製高性能車両として、平成7年、2編成4両を導入。平日の通勤時間帯には連結して4両1編成で運行している。



古町車庫に停車中の3000系3501号車

3000系車両は「ひと」「環境」にやさしい車両として、平成21年からこれまでに10編成30両を導入。京王電鉄からの譲渡車両。700系車両同様、譲り受け前の昭和38年、鉄道友の会から「ローレル賞」を受賞している。